

平成 30 (2018) 年度附属校・公立学校との連携事業  
小学校英語教育の充実

和歌山大学教育学部 尾上 利美

和歌山大学教育学部附属小学校 中岡 正年教諭・中村 正雄教諭

本研究課題は本年度新しく始める研究課題で、「小学校英語教育の充実」という大きなテーマのもと、新教材の活用方法、教材・教具の開発、振り返りの方法、指導形態のあり方、低学年・中学年・高学年を見通す学習のあり方、ICT の活用、他教科と関連づけた指導などについて、附属小学校の英語教育の充実のため取り組んできた。共同研究代表者と共同研究者のこれまでの経験と専門性を互いに活かしながら、子ども達が楽しみながら外国語を学ぶことのできる授業実践の研究を行った。

**和歌山大学教育学部附属小学校 中岡 正年**

本校では、外国語活動の学習を平成 14 年度から全学年で行ってきている実績がある。また、その指導にあたり全学年において ALT が授業に携わることによって、早い段階から外国語の発音やその国の文化に慣れること、英語に親しみをもち主体的にコミュニケーションをとろうとするように取り組んできた。これらの取組を通して、改訂前の高学年における外国語活動の目標である「① 言語や文化に関する体験的な理解②積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度③外国語への慣れ親しみ」等は概ね達成できていたと考えている。一方、ALT と担任教師の打ち合わせの時間が少なかったことや担任の外国語に対する苦手意識などから、互いに連携が十分にとれず、さらに丁寧な授業や発展的な授業を目指すことを困難にしていることが課題であった。また、外国語活動を学習する子どもたちが習得した言語を学校外において発揮する機会が少なかったことも課題であった。

そこで、今年度は、和歌山大学教育学部の尾上先生のご指導のもと、3 年生の外国語活動においては既存のテキストである『Let' s Try!』で学習したことを総合的な学習の時間と関連性をもたせ、次の実践を行った。

単元名：Welcome to Wakayama! This is for you!

単元計画：(全 6 時間)

第 1 時 外国人観光客にウェルカムカードを送ることを確認し、気持ちを伝えるカードにはどのようなものがあるのかを知る。(日本や世界のカード等)

第 2 時 形を表す言葉や物を表す言葉について知る。

第 3 時 ウェルカムカードを作成する。カードの材料を集める。

第 4 時 ウェルカムカードを作成する。カードについて紹介し、友達のカードの感想を伝える。

第 5 時 外国の方にウェルカムカードを渡す。※総合的な学習の時間と連携して行う。

第 6 時 学習の振り返りを行う。

本学級は、総合的な学習の時間にて、世界遺産の熊野本宮大社に行くことを予定していたが尾上先生のご助言のもと、現地で出会う多くの外国人観光客とコミュニケーションを図る機会を設けることにした。そこで、普段の外国語活動においても普段の学習が現地出会う外国人の方とコミュニケーションを図ることができるかという目的も生まれ、子どもたちの興味や関心や高まった。

また、現地の外国人観光客とコミュニケーションをとる一つとして、和歌山に来てくれてありがたい思いを「ウェルカムカード」に込めて外国人観光客に渡すことを考えた。コミュニケーションをとる相手を明確にすることで、外国語で思いを伝える必然性が生まれ主体的に学ぶ一つのきっかけになると想定したからである。またカード作りの際にも自分の思いを伝えることで活動が展開していくように工夫することで楽しみながらコミュニケーションをとることもなると考えた。

実際、現地にては、3年生の子どもたちが外国人観光客の方と話すことは大変なプレッシャーであり、なかなか話かけられない子どももいたことは事実である。しかし、多くの子どもたちが自分の意志と自分の学んだ言語を使って何とか話しかけ、コミュニケーションをとろうとしていた様子が見られた。

実践後のアンケートや感想文の中においても、自分の作成したウェルカムカードを渡すことが大変楽しかったことなど、外国の人と実際に話をしてこれからも英語をもっと勉強してみたいと感じたなど、前向きな気持ちをもっている子どもが多くいることがわかった。

今回の共同研究において、他教科・他領域との関連性をもたせることや学習することの意義付けが重要な要素であることが明確になった。とくに外国語（英語）は子どもたちにとって身近な言語ではあるが、日常生活の中では活用しなくとも生活ができるからである。しかし、今回の実践を通して、子どもたちは多くの外国人が和歌山にも来ていることを実感し、外国語を学ぶ意味を実感したようであった。また、自分の知らない世界が新しい言語を身につけることで開かれていくことや自分とは違う文化をもつ人と関係をもつことが楽しいことであると感じたようである。今後も、外国語を学ぶことの必然性を持ちながらも、学習者が楽しいと感じる実践を、希望が叶うのであれば尾上先生と共同で考えていきたいと感じている。



図1 現地にて外国人観光客にカードを渡したりインタビューを行ったりしている様子

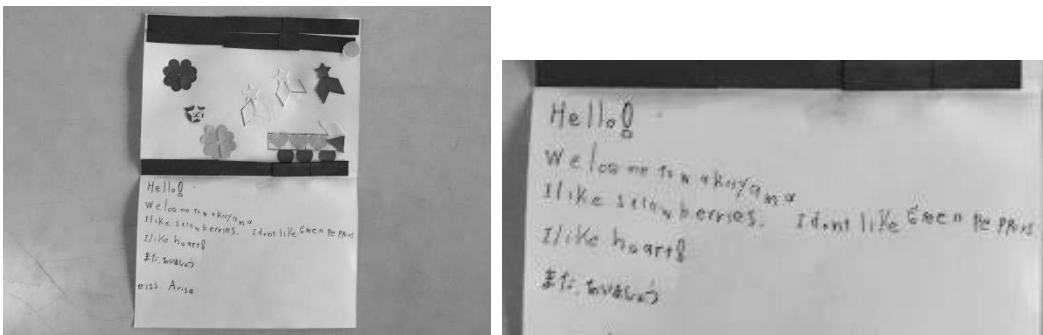


図2 子どもが作成したウェルカムカードの一例

## 1. 子どもが生き生きと活動できる単元設定

ここからは2年生外国語活動の実践を例に挙げて述べていく。子どもたちに付けたい力(学習内容)を中心に、興味をもって取り組むことが出来るよう、単元を組むことにした。学習内容としては①色(color)②果物や野菜(fruits and vegetables)③動物(animals)を簡単な文とともに学習するように考えた。この3つの学習内容を「2A ゆうえんち」と題し、それぞれアクティビティを楽しみながら外国語に触れることが出来る場を設定し学習を始めた。

### ◇単元の見どころ

今まで学習した内容(動物・色・野菜や果物)を使って楽しみながら外国語に親しむことができる。

「ゆうえんち」というテーマを設定し、各授業でのアクティビティを遊園地に関連するような活動にした。また、学級の時間を使い、自分たちでさらに深めたいことを話し合うことでみんなで作り上げていく外国語活動を目指した。

## 2. 子どもたちにとって魅力的なアクティビティ

ここでは実際に行ったアクティビティを紹介する。

### ①オリジナル動物園作り

オリジナル動物園作りでは、「rock, paper, scissors, one two three」のかけ声でじゃんけんをし、勝ったほうが自分の好きな動物を言う。「Cat, please.」負けた人がその動物のカードを取ってきて渡すというアクティビティである。カードは、自分の好きな場所(ワークシート)に貼ることができる。このアクティビティの特徴は動物を自然な形でどんどん使うことが出来るところにある。外国語を言わされているのではなく、子どもたちの自分の好きな動物を「言いたい」という気持ちを刺激することが出来る活動になった。



【図1 ペアの子と活動】



【図2 動物カードを貼ったオリジナル動物園】

### ②お題カードを使ったの買い物

このアクティビティでは主に野菜や果物を外国語で言うことを目標に行った。果物は学習済みであったので野菜について扱う単語は2年生という学年を考慮して8種類に絞った。

買い物活動では、基本のフレーズとして「tomato, please.」といった「野菜(果物)の名前+please」をおさえて、お店役とお客役に分かれて買い物を行った。また、買い物時にお題カードを用意し、引いた野菜や果物を注文することとした。用意したカードには「potato」「potato and cabbage」「potato and cabbage and eggplant」などと1~3種類を注文するようにした。また、発達段階を考えて単数系のみを扱った。子どもたちは、最初は緊張していたみたいだったが、段々と意欲的に外国語を使い、活動する様子が見られた。

この活動の大きな利点はお店側と店員側に分かれることで行うことが出来るやりとりにある。低学年の学習では、役割演技という手法を使うことがある。実際にそれぞれの役割に立つことで自然と会話が生まれ、やりとりに繋がっていくことができる。低学年時での会話(conversation)は子どもたちにとって難しいが、役割演技を取り入れることで自分の知っている単語を使おうとする姿や、友だちに尋ねたり、教えてもらったりと他者との関りが生まれる。結果と

して外国語を使って上手く買い物ができる時の達成感  
は子どもたちの表情からとらえことが出来た。



【図3 お店とお客に分かれての買物活動】

### 3. 子どもたちでつくる外国語活動

子どもたちにとって楽しいと思える外国語活動にするためには重要な要素がある。その1つが教材と子どもたちの距離が近いということである。「2A ゆうえんち」とテーマを設定したこともそうだが、子どもたちの声に耳を傾けクラスで外国語活動について話し合うことでよりよい活動につなげることが出来る。本実践では、学級活動の時間を使って外国語の授業についてみんなで考えた。きっかけは朝の10分の時間に「先生、もっと言葉(外国語の単語)を増やそうよ。」と子どもが発言したことから始まった。また、話を聞いていくうちに買い物の活動についても「あいさつを入れてみたらもっと良くなる」と意見が出たので学級の時間に話し合った。

オリジナル動物園作りでは、外国語で知っている言葉を出し合った。(bear, dolphin, lion)などたくさんの動物の名前が出た。中には難しい言葉もあったため、みんなが使いやすい言葉を選んで授業に取り入れることに決めた。

買い物活動では、「あいさつを入れる」という意見が出たので、実際に役割演技を入れてやってみた。以下学級の時間での話し合いである。

あきと：外国語で買い物するとき「Hello」ってあいさつをいれたらどうかかな。

れい：片方だけ言ったらおかしいからどちらも言ったほうがいいよ。

みれい：そういえば、FLTの先生が言ってたように渡す

時に「Here you are」って言ったらいんじゃないかな。

教師：じゃあ、一度やってみましょう。

(つとむとあやかが選ばれる)

つとむ：Hello.

あやか：Hello.

つとむ：Melon and orange, please.

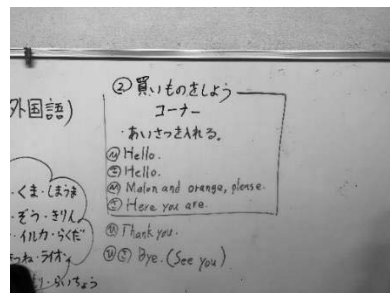
あやか：Here you are.

教師：上手にできたね。

みほ：先生、もらったらお礼を言わないとだめだから「Thank you.」って必要だよ。

かりん：その後に「Bye.」「See you.」っていれてみても大丈夫？

始めに「Hello」とどちらもあいさつした方がいいよ。渡す時はFLTが言ってたみたいに「Here you are」といいたらいいんじゃないかな。もらったらお礼を言わないとだめだから「Thank you」と言ってみようという意見が出た。驚いたのが、授業では取り扱っていないのだが、買い物が終わった後にさようなら「Bye」や「See you」を入れてみたはどうかという意見が出たことであつた。役割演技を通したことによって、より子どもたちが日常の会話に近い形式で外国語を楽しもうと探究する姿が見られた。



【図5 アクティビティを自分たちでより深める】

これを受けて動物「fox, dolphin」・野菜「green pepper, eggplant」・果物「lemon」の単語を増やし、動物園の絵と買い物のお題カードを作った。買い物活動のお題カードは、野菜と果物を両方書いてもよいこととし、1つまたは2つの物を書くように指示した。名前も壁の掲示物(学びの足跡)を見ながら外国語で書く姿が見られた。教材と自分が近づくこと



でより外国語活動との距離が縮まり、自分たちが作った動物園や買い物のお題カードを使って活動することを楽しみにしている様子であった。

以下第4時で学習した後の2年生の振り返りである。

	たいへんできた	できた	できなかった
楽しく活動できたか	25人	3人	0人
外国の言葉をたくさん使うことが出来ましたか	26人	2人	0人

#### 自由記述

- ・ Here you are. が上手くできたのでもっと上手になりたいです。
- ・ 動物の英語や渡す言葉を使えてよかったです。
- ・ 新しい動物が増えてとても楽しかったです。
- ・ 上手くできたことは挨拶をいっぱい出来たことです。
- ・ 英語をたくさん使えて良かったです。

### 5. 成果と課題

本研究の成果としては以下の点がある。

低学年時における外国語活動はやはり子どもたちが母語ではない言語に慣れ親しむことが重要だと感じた。

慣れ親しむことが出来るには歌やチャンツが非常に有効である。というのも朝の時間に color song を歌うだけで、自然と日常でも外国語が出てくるようになった。また、歌もテンポを変えたり、動作を加えたりすることで何回も繰り返し行うことが出でき、子どもたちにとっても楽しい活動になった。少しずつ日常的に外国語に触れる機会をとることで外国語に対する抵抗感が減ってくると考える。中には休憩時間に外国語の歌を歌う子も増えてきて、教師の代わりに伴奏をする子も出てきた。

もう1つが学習すること(教材)との距離を縮めることにより、より楽しみながら多くの外国語に触れることが出来ると分かった。そのためには他の教科・

領域と関連させることが有効である。そうすることによって外国語に触れる時間が増え、自分たちがもっと楽しく活動できるように工夫することができるからである。自分たちで外国語活動をつくっていくことの面白さも大事であると思う。

また、ゲーム性を持たせたり友だちとの会話できるアクティビティを設定したりする必要である。子どもたち同士のやりとりを外国語で行うことにより伝わった時の嬉しさや出来るようになった達成感が非常に大きい。いかに子どもたちが教材と向き合える場を設定し、自分の言葉が伝わった時の喜びを体験させることができるのかが学習意欲につながると考える。

課題としては、低学年時の外国語活動において教科書や指導要領がない分、指導計画を立てるのが難しいことにある。子どもたちの事態を踏まえ、興味・関心が持てるような取り組みを考えることが必要である。また、今回の実践では子どもたちが授業で取り扱った言葉以外にも子どもたちが知っている言葉が非常に多かった。しかし、外国語に慣れていない子にとって単語数を増やしすぎると難易度が上がり、分からないままの学習に繋がってしまう恐れがある。3年次への接続と子どもたちの実態を踏まえ、教師側がしっかりと扱う内容を見定めておくことが非常に重要であると感じた。また、どうしても教師主体の活動になってしまうため、習ったことを生かせる機会を保障することも取り入れていくべきである。そうすることで子どもたちが主体的に活動し、「外国語をもっと使いたい」という気持ちにつながることが出来る。

学習を進めていく中で私が大事だと感じたのが、低学年の子どもたちがまず外国語に親しみ・楽しむこと。これが1番大事であると思う。その中に習った表現や他者とのかわりがあり、外国語を使う場面がしっかりあることが魅力ある授業であると思う。

今後、子どもたちが「外国語活動って楽しいな。」  
「もっと色々な言葉を知りたいな、使ってみたいな。」  
と思えるような取り組みを考えていきたい。